

授業改革ステップアップ事業の取組から 「学習評価の推進」と「言語活動の質の向上」を目指した取組

11月には、鳥取県が実施する授業改革ステップアップ事業の公開授業が行われ、中学校区において、2年間にわたる研究推進の成果が紹介されました。本号では、福米東小学校の教員の協働性を高めながら、「学習評価の推進」と「言語活動の質の向上」を図った取組について紹介します。

福米東小学校(福米中校区)の取組 【見取り表・話合いのプロセス設定】

小学校5年生 「単量あたりの大きさ」・授業改革ステップアップ事業・学習指導案より

本時のねらい ガソリンの量か走る道のりかのどちらかをそろえるという単量あたりの考え方をを使って、どちらがお得な車かを比べることができる。

問題 Aの車は、35Lのガソリンで700km走ります。Bの車は、50Lのガソリンで800km走ります。どちらの車を買うと、たけしさんは得をするでしょう。

めあて 単量あたりの考えを使って、どちらの車を買えば得するといえるか調べよう。

見通しに従って解決する(自力解決)

- ガソリンの量、走る道のりの両方で比べることができる。(抜粋)
→得をする車を比べるには、どちらの単位でそろえた方がよいか。
- ガソリンの量を1Lにそろえた式で比べることができる。
→走る道のりを1kmにそろえた式でも比べることができないかな。
- △立式し、答えは出せたが、求めた数は何を表しているか分からない。
→割る数は何あたりを意味しているのかな。答えに単位をつけてみよう。
- △単量あたりの考え方が身についておらず、計算の仕方が全く分からない。
→1Lや1kmにそろえるためには、何で割ればよかったかな。



学習評価の推進

※学習指導案に見取り表(子どもの反応予想と具体の支援)を設定
→Cの子どもへの支援のみならず、AやBの子どもを伸ばす支援も意図されています。

言語活動の質の向上

※学習指導案に話合いのプロセスを設定

⇒話合いの視点を明確化するとともに、そのプロセスを事前に明らかにすることで、子どもの理解が深まるように工夫されています。

話合い、考えを深める(練り上げ)

- に向けて子どもたちがまとめをつくるための練り上げの視点
- ①ガソリンの量と走る道のり、どちらの量にそろえて比べたのかな。
- ②A,Bどちらの車が、得をする車だと言えるのかな。
- ③ガソリンの量と走る道のり、比べやすいのはどちらか。

まとめ・評価問題・振り返り

【校内授業研究における取組の工夫】

☆見取り表の改善を中心に据えた全体研の実施

全体研では、教師の見取りの精度や支援の向上を図るための検討がなされています。

□改善された見取り表の例

子どもの困り感

△テープ図をもとに式を立てられない。

教師の支援

→今聞かれているのは、テープ図のどの部分かな。

追加された支援内容

「全部の数」は何人かな? 「来た人の数」は何人かな?



高い協働性のもと「チーム学校」で校内授業研究が推進され、子どもの確実な成長を実現しています。

☆「事前研→全体研→事後実践(改善された指導案の活用)のサイクル」

改善された指導案を活用し、他のクラスで実践する取組を進め、全体研での検討事項の成果を学年や学校全体で実感できるように工夫されています。